

県立病院ニュース

第5号

平成18年8月発行

発行 福島県病院局改革グループ <http://www.pref.fukushima.jp/kenbyou/index.htm>

「会津統合病院（仮称）基本構想」決定！

会津若松市河東町十文字地区に建設予定の会津統合病院（仮称）について、平成18年8月7日、福島県行財政改革推進本部県立病院改革推進部会（部会長：副知事）において、基本構想が決定されました。その概要は次のとおりです。



「会津統合病院（仮称）基本構想」（概要）

1 統合病院整備の基本理念

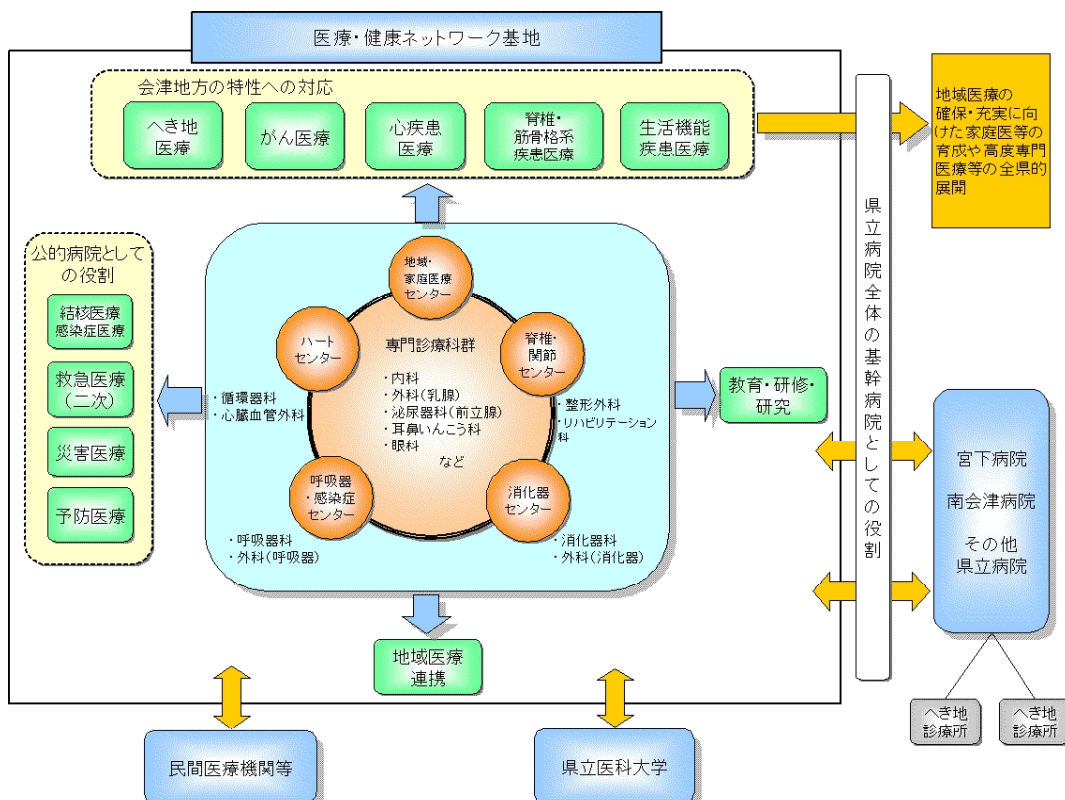
広域な会津地方の特性に対応した医療の面的展開を図り、本院の持つ医療資源をへき地等の医療機関に効果的に提供する。

会津地方の民間医療機関等と機能分担し、いわゆる総合病院ではなく、専門特化した高機能の病院として、南会津地方を含む会津地方全体の医療水準の向上に質する役割を果たす。

県立病院全体の中の基幹病院として、へき地を含む地域医療の確保・充実に向けた家庭医の育成や高度で専門的な医療の提供など全県的な視野からも展開を図る。

これらのことから統合病院の基本理念を、

会津地方を中心とする「医療・健康ネットワーク基地」の実現とする。



2 医療機能

へき地医療：医師の派遣等による医療支援やへき地医療に従事する医師の育成
がん医療：消化器系、呼吸器系、乳腺、前立腺のがんを中心とした集学的治療
心疾患医療：循環器系、心臓疾患系の専門医療
脊椎及び筋骨格系疾患医療：整形外科領域の専門医療
生活機能疾患医療：目、耳、泌尿器などの疾患に対する専門医療、人工透析
救急医療：心臓血管、循環器疾患など統合病院の医療機能に対応した二次救急
結核医療、感染症医療：会津総合病院が担っている政策医療の継続
災害医療：広域災害への対応を想定した施設・機能
予防医療：人間ドック、疾病予防セミナー等の啓発活動
教育・研修・研究機能：医師等医療スタッフの確保、養成、資質向上
地域医療連携機能：疾病や医療機関の医療資源に応じた多面的な連携の強化

3 病床規模

300床程度（一般：270床、ICU・CCU：6床、結核：16床、感染症：8床）

4 整備スケジュール

平成23年度中の開院を目指して整備を進める。

会津総合病院（仮称）の整備については、今後、上記基本構想を基に、具体的に取り組んでいくこととなります。今年度は用地買収のほか、基本計画の策定などを予定しており、目標年度である23年度中の開院が実現できるよう、着実に整備を推進してまいります。

茂田管理者の今月のひとこと

会津総合病院（仮称）の建設へ向けて



会津総合病院（仮称）の基本構想が出来上がりました。今年度中に約5万平米の土地を購入し、平成23年度には300床の病院を開院しようというものです。その詳細は先に記しましたが、県立病院全体の基幹病院として高度で専門的な医療を提供し、地域医療の確保・充実に向けた医療スタッフの育成を図ると共に、南会津医療圏をも含んだ会津地方全体の「医療・健康ネットワークの基地」となるものです。高度専門的な医療としては心臓病・高血圧を対象としたハートセンター、肺癌や肺炎を対象とする呼吸器センター、消化器癌などを対象とする消化器センター、整形外科や急性期リハビリを行う脊椎・関節センターなどを計画しています。これらは皆、これから高齢化が進むであろう会津地方の住民の罹る疾患の特性を考慮して取り上げたものです。また全国にも珍しい地域家庭医療センターを作りますが、地域住民の全てが病気の初期には先ず診察を受けるはずのホームドクターを養成する部門です。ホームドクターは地域の診療所には必ずいなければなりません。日本ではまだホームドクター制度が定着していないので、病人は直接に病院に来る傾向が強いのですが、病気の70%はホームドクターにより診断・治療されて健康を取り戻すと言われています。このようなホームドクターの専門医が養成されやがては各地域の診療所に派遣されると、地域の住民は病院が無くても安心して保健・医療をまかせることが出来るようになります。その分病院の専門医は専門科の医療に集中でき、より高度な医療が可能になると期待されます。

ここで、ホームドクターと各専門医の優劣のようなことが気になるところですが、ホームドクターというのは、低レベルの医療をする医師というのではなく、イギリスなどではホームドクターの研修に3年をかけてG P（general practitioner）という称号を与えています。ホームドクターは単に患者さんの病気を治すというだけではなく、そ

の患者さんに全人的にかかわって、健康的な日常生活の確保、病気の予防、定期的な健康診断、一般的な病気の治療、専門医療への橋渡しなどを受け持ちます。将来の日本の保健・医療のなかでは必ず重要視される部門であります。

会津統合病院はいわゆる総合病院ではなく、先に述べた5つのセンターに特化して高度医療を行う病院です（しかし図の中に示されているいくつかの診療科については、従来と同様に地域の住民を対象として継続して行きます）。その他の高度医療については、会津地方の民間病院と機能を分担し、互いに補い合っゆく構想であります。この高度医療を支える人材は、県病内部で研修などを通して医療技術のレベルアップを計ると共に、広く外部からも集めなければならないと思います。そのためには県立医大などと連携しつつ有能な人材を確保する計画を練っているところです。たとえ専門医といえども専門の病気を診るだけではなく、受け持った患者さんとは全人的に係わって行くことを望んでおりますので、そのような特色のある医療スタッフを病院内部で育成して行くことが出来るように、医療人の養成・研修システムを充実させて行くつもりです。この21世紀の夢をのせた新生統合病院を全県病スタッフが一致協力して作り上げて行きましょう。



トピックス

「ハチドリの一とすく」

あるとき森が燃えていました

森の生きものたちは
われ先にと逃げていきました

でもクリキンディという名のハチドリだけは
いったりきたり
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落とすのでいきました

動物たちがそれをみて
「そんなことをしていったい何になるんだ」
といて笑います

クリキンディはこう答えました
「私は私にできることをしているの」



ハチドリ：
中南米と北ア
メリカ各地に棲
息する、体長10
cm前後の極めて
小さい鳥

この物語は、南米に古くから伝わる物語です。今、この短い物語が様々な方面で反響を呼び、静かな広がりをみせているそうです。（NHKのニュースでも取り上げられており、ご存じの方もいるかと思いますが。）

大きな困難や問題に対し、（ハチドリを嘲笑する動物たちのような）周囲にとらわれることなく、状況を変えるために自分ができることをする。このハチドリの一とすくつ水を運ぶ姿が、人々の共感を呼んでいるとのこと。

私たちは今、県立病院改革の中で経営改善に取り組んでいます。この大きな課題に対し、私たち一人一人には何が出来るでしょうか？ 経営改善に限ったことではありませんが、たとえ小さなことであっても、私たち全員が、今自分にできることをする。この小さな積み重ねが、今の県立病院にとって大切なことなのではないかと思えます。

～ご意見・ご感想をお寄せください～

親切 信頼 進歩